



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県総合科学博物館 館長
松井 淳 福岡県教育庁北九州教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 地域行事が「中学生ボランティア」を育て、「中学生ボランティア」が地域行事の「環」となる

10:50~11:20

宮地 朝男(佐賀県佐賀市) 佐賀市巨勢校区子ども会連絡協議会 会長

佐賀市の「子どもへのまなざし運動」の中で、「地域教育コーディネーター」には、学校地域連携を促進する様々な機能が期待されている。中学校区を担当するにあたって、中学生の地域参加の機会が少ないことに着目した。中学生の社会参加には、活動の場と役割と出番が不可欠である。出番づくりには、公民館や地域と連携し、生徒の地域参加には、学校の協力を得た。地域行事を洗い出し、生徒会はもちろん全校生徒に呼びかけ、活動計画を立案し、広報、引率、報告等の活動を行った。「中学生ボランティア」の活動は、「環」として住民や小学生児童を繋いだ。中学生の地域行事参加は、行事のあり方や雰囲気を変え、中学生自身を変え、住民の中学生評価を変えた。

2 大学公開講座を横断する自主学習組織「六一会」の挑戦

11:25~11:55

佐々木 隆(徳島県徳島市) 徳島大学大学開放実践センター同窓会「六一会」 会長

「六一会」は、昭和61年の大学の公開講座受講生による自主同窓会である。充足後四半世紀を経て、新たな方向性を探るため、従来に限定した諸活動を、外部に開き、社会貢献を目指した活動への転換を模索した。新企画の基本構想は、「地域課題を取り上げた講演会の実施」、「クラブ活動メニューの拡大と充実」、「社会的課題にアプローチする研修旅行」、「大学との協働」で、新規事業や重要課題についてはプロジェクト制を採って、会員に過剰負担がかからないよう配慮している。結果的に、外部からの参加者も増えて、会員数の維持に成功し、大学外に目を向ける準備体制が整いつつある。

3 「青春部」が挑む地域交流～「無理せず」、「楽しく」、「若者が動く」～

12:00~12:30

山口 智久(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 部長
増本 唯史(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 副部長
石川 裕資(鳥取県日吉津村) 日吉津村「富吉青春部」 会計

富吉自治会「青春部」の活性化は、村の行事の慰労会から始まった。行事参加はスポット参加で、何処の誰かも分からない。「さびしいじゃないか」とみんなが思い、「交流」の機会をみんなが求めていた。「青春部」は慰労会を提案し、「懇親と懇談」が定例化した。交流の機会に共鳴反応が起こり、呼びかけの輪が広がり、年齢の枠も吹き飛んだ。ルールは「無理せず」、「楽しく」、「若者が動く」、とした。夏祭りを初め、運動会、球技大会、芸能大会など村の行事には率先して参加し、関係者から高い評価を得て、メンバーも倍増した。最終目標は継続的な地域の活力を作り出すことである。活動歴3年。後継者の確保を含め、「青春部」の知恵の出どころである。